下村海南（しもむらかいなん）　評論家、歌人、法學博士。明治八年二月十一日和歌山縣生れ、昭和二十一年十二月九日歿（一八七五―一九老）。本名宏。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治學科卒。逓信省入省、大正四年臺灣總督府民政長官等を經て、十年朝日新聞社入社、昭和五年副社長、十一年貴族院議員、十八年日本放送協會會長、二十年國務相兼情報局總裁。

著書『政界』（四版・明治三十九年七月五日中外出版社有斐閣書房）、『芭蕉の葉陰』（大正十年十一月十日聚英閣「心の華叢書」）、『時局問題批判』（合著、大正十三年三月二十五日大阪・株式會社朝日新聞社）、『新聞に入りて』（大正十四年十一月二十日日本評論社）、『旋風』（共作、大正十五年十一月二十八日東京朝日新聞發行所）、『朝日會館記念講演集』（合著、大正十五年十一月二十日大阪・朝日新聞社）、『經濟隨想』（合著・東京朝日新聞經濟部編、昭和二年五月七日日本評論社）、『骨と肉』（昭和二年十月十日日本評論社）、『その日は來た―普選演說集』（合著、昭和三年一月五日朝日新聞社）、『普選第一戰の我等斯く戰へり』（合著、昭和三年三月八日朝日新聞社「朝日民衆講座」）、『新聞記者打明け話』（合著・大阪朝日新聞社整理部編、昭和三年四月十七日世界社）、『新聞學識』（昭和四年一月五日日本評論社）、『鯖を讀む話』（昭和四年八月十五日日本評論社）、『さし潮ひき汐』（昭和四年九月一日日本評論社）、歌集『天地』（昭和四年十月二十五日博文館）、『盜忠』（昭和五年九月二十日日本評論社）、歌集『白雲集』（昭和九年四月一日日本評論社）、隨筆『通風筒』（昭和九年

七月十五日四條書房）、『南游記』（飯島漫史合著、昭和十年十月三十日大阪・朝日新聞社）、『大楠公八百年祭記念講演集』（合著・網谷才一編、昭和十年十一月五日兵庫・神戸市聯合青年團）、隨筆評論集『プリズム』（昭和十年十一月十八日四條書房）、『滿洲移民』（東亞問題調査會編、昭和十四年三月三十日朝日新聞社「朝日東亞リポート」）、『國語文化講座』（合著、第五卷「國語生活篇」昭和十六年十二月五日、第八卷「國語進出篇」十七年一月三十日朝日新聞社）、隨筆『ゝ吉角』（昭和十七年七月一日櫻井書店）、隨筆集『私の隣組』（合著・大政翼賛會宣傳部編、昭和十七年十月五日翼賛圖書刊行會）、『千島視察錄』（合著・上野貫一編、昭和十七年十月九日札幌・北海道協會）、『趣味と青年』（昭和十八年一月三十日潮文閣）、『隨筆大阪』（合著、昭和十八年六月十日大阪・錦城出版社編刊）、『戰爭と建設』（昭和十九年六月二十五日大東亞書房）、『蘇鐵』（昭和二十年十一月二十日八雲書店「新日本叢書」）、『終戰記』（昭和二十二年十月三十日鎌倉文庫）、『天皇の印象』（合著、昭和二十四年十一月三十日創元社）、『終戰秘史』（昭和二十五年五月二十日大日本雄辯會講談社）、『八・一五事件』（昭和二十五年八月十日弘文堂「ゾテホ文庫」）等。

文獻、蒲田楚石著『海南博士ロマンス』（大正十年八月二十七日臺北・臺北活版社）、『下村海南先生記念事業一覽』（昭和二十六年十月三十日下村海南先生記念事業実行委員会）等。